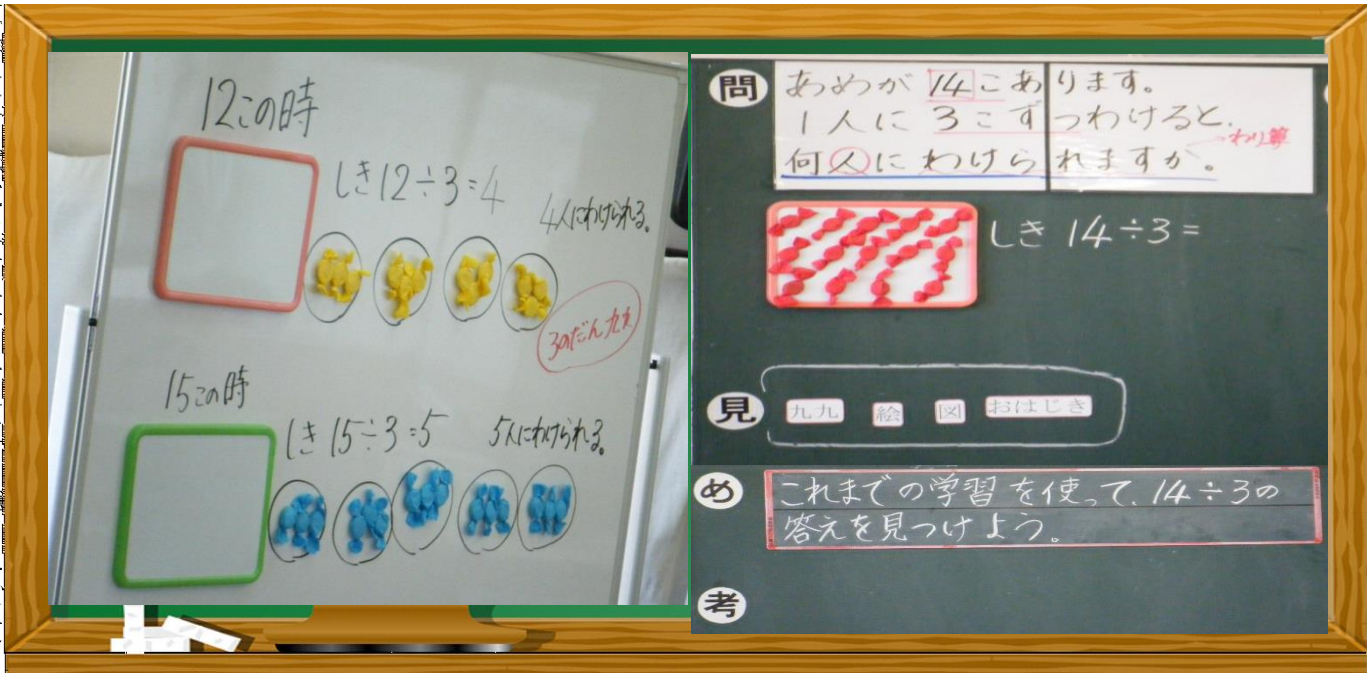


授業者も！参加者も！学ぶ!!高まる!!広げる!! 西部の算数・数学の未来へのバトンをつなぐ

平成30年6月8日(金)
西部教育事務所

5月24日(木)に入野小学校において、6月18日(月)の授業研究会に向けての教材研究会が行われました。入野小学校としては、今回が初めての「授業づくり講座」ということもあり、新学習指導要領の実現を目指す授業づくりの方向性や教材研究の在り方について学ぶことができました。

町内外からも複数の先生方の参加があり、今回の学びがそれぞれの学校へと広がっていています。次回からの「授業づくり講座」においても、拠点校や対象校以外の学校からの参加者が、今回以上に増えていくことを期待しています。



今回の授業

黒潮町立入野小学校 3年「あまりのあるわり算」 乾 百合子教諭

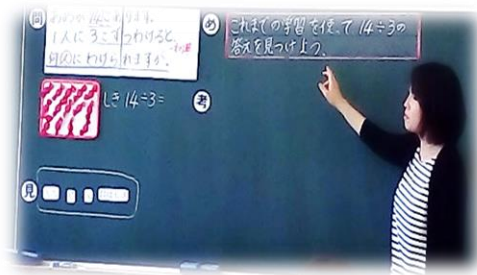
生活の中においては、いつもきれいに割り切れる場合だけではないので、そういった場面に出会ったときにどう処理するのか、ものを分けたりする場面において、より実践できるように $\square \div 3$ を解決する問題場面をまず設定した。そして、 \square が 12、15、14 となっていたときに、3の段の九九の中に14となるかけ算がない「答えのないわり算」の場合があることに気付かせ、課題解決を図っていく授業であった。

模擬授業においては、展開部分の導入場面のみスポットを当て、『いかに子どもに課題意識を持たせることができるか』を問う授業提案であった。

授業者より

導入では、具体物を使ってあまりのをおさえようとしていたが、あまりを知る意味について考えさせることが必要であることがわかりました。再度、授業構成について考えたいと思います。

また、今学習している「わり算」の際に、九九表の隙間の数についても学習しておく必要があることに気がされました。



参会者の声

授業をゴールから描いていくことや授業におけるまとめを内容+ α の能力ベースのまとめに変えていくことの重要性について学ぶことができました。また、見方・考え方を成長させるために、2年生でのかけ算の学習の際には、“九九表の隙間の数”について学ばせることが大切だということが分かり、大変勉強になったので、ぜひやってみたいと思います。

(黒潮町内 A教諭)

参会者の声

新学習指導要領を読み解くことが何よりも大切だと気付かされました。そこから、何を教えるべきところなのか、考えさせるべきところかはどこなのかを見極めていきたい。

内容ベースの授業から能力ベースの授業への転換を図っていきたい。

(黒潮町外 B教諭)



齋藤先生からは、“3M”から学びを描くということで、以下のような助言（一部抜粋）をいただきました。

(1)【授業をゴールから描く】

- ・「あまりのわり算」を学ぶことによって、どんなことができるようになったのか、どんな見方が子どもの中に備わったのかということをもつていくこと。

(2)M1【見方・考え方を鍛える】

- ・眼の付け所を学ぶという学習を丁寧に行うこと。例えば、6の段では20を表すことができるけれど、加法をうまく組み合わせることで、 $20 = 6 \times 3 + 2$ と表現することができるということ。そのために、2年生のうちに、 $3 \times 4 = 12$ 、 $3 \times 5 = 15$ 、それでは、13、14の時にはどうしたらいいのということかけ算を学習した後に考えさせたい。

(3)M2【数学的活動をいかに組織するか？】

- ・学習指導要領に「あまりについて知る」と明記してあるように、「あまりのあるわり算」は指導事項であって、思考対象ではない。あまりを出すことが目的ではなく、あまりを知るということは、あまりがどういう構造になっているかを知ることが重要である。

「今月の学び場」のお知らせ

6月18日(月) 入野小授業研究会(13:10~)

6月19日(火) 中村中授業研究会(13:00~)

6月20日(水) 清水中授業研究会(13:30~)

6月21日(木) 清水小授業研究会(13:50~)